

## 火葬場建築に伴う道路新設に起因する交通量増加地域での住民主体の安全性向上支援

住民主体  
アンケート

火葬場建築

交通量

正会員 ○國分 想<sup>\*1</sup> 正会員 神田祐磨<sup>\*2</sup>  
正会員 三浦昌生<sup>\*3</sup>

## 1. はじめに

住環境に問題を抱えている地域住民にとっては改善計画や対策を考えようとしても、調査には専門的な知識を必要とするため、容易ではない。住民が自分たちで改善方法を導くことができるように、また住民の住環境に対する意識を高め、安全で住みよい街づくりを目指し住環境の改善活動を行う。これを私たちは住快環プロジェクトと呼んでいる。本研究ではさいたま市見沼区染谷共栄自治会を研究対象とし近隣の火葬場建築に伴う交通量増加地域での安全性向上の支援を研究目的とする。

## 2. 対象地区

## 1) 決定までの流れ

2012年4月～8月に地域の住環境を改善したいという町会・自治会に募集を行い、16地区からの応募があった。染谷共栄自治会はその応募地区のひとつであり、火葬場の建築に伴い以前の生活道路が通過道路となっていることが問題の自治会であった。特殊な問題を抱えた染谷共栄自治会を研究対象とし、染谷新道の通過交通量改善に向けた交通量実測調査、懇談会(意見交換会)を共同で行い、改善案を提案していく。

## 2) 地区概要

図1に染谷共栄自治会における火葬場と染谷新道の位置を示す。この自治会に加入している世帯は50、全世帯に対する割合は92%である。近隣の火葬場の建築に伴い染谷新道の通過交通量が増えた地区である。また元々火葬場の建築が決定したことを契機に発足した自治会であり問題解決に向けて以前から非常に意欲的に取り組んできた地区でもある。

この自治会は、火葬場の建築を理由に旧大宮市との間に染谷新道に関する協定書を締結したが遵守事項が実施されていないことが問題のひとつである。特に染谷新道の生活道路機能が侵害されており、今後さらに悪化することが明らかな状態である。本来、染谷新道は生活道路として位置づけられている道路が通過道路と化していることを問題視し住快環プロジェクトに参加した。

## 3. 第1回懇談会

第1回懇談会を2012年10月13日に、染谷共栄自治会館にて行った。自治会長が事前に班長会議にて会合の日時を告知し、染谷新道の通過交通量について興味を持ち、問題視している住民12名で第1回懇談会を行った。

懇談会の内容は、プロジェクトの説明、自己紹介、対象地区

決定までの流れ、交通量調査の方法について、地区のヒアリング、今後のスケジュールの確認などである。話し合いでは交通量の調査方法や調査ポイントの決定などについて多くの質問を受けた。また、実測で得られたデータをどのように活用して改善活動を行なっていくのかという点が話し合いの焦点となった。



図1 染谷共栄自治会地区における火葬場と染谷新道の位置  
(国土地理院HPによる)

## 4. 交通量実測

## 1) 実測の概要

2012年11月22日(木)の7:30～10:30と16:00～19:00に染谷共栄自治会において交通量調査を行った。調査では、アンケートの結果と話し合いの結果を踏まえた上で、実測地点の数の班に分け、1つの班を、学生1名、住民4名～5名の構成で計20名の住民が参加した。自治会長、役員と話し合いを行った結果、調査日時は染谷新道の通過交通が最も多いと予想できる平日の通勤の時間帯とし、実測地点は染谷新道が抜け道として利用されると予想される図1上の地点A、B、Cの3地点に設定した。調査の際は、乗用車、貨物車、さらに二輪車類(バイク)と自転車に分け、一方向より右左折直進とすべての方向を調査する。

## 2) 結果

図2に南から北へ抜けるA地点の結果を示す。乗用車の交通量が比較的午後の実測で増えている。時間帯による乗用車の交通量変化が明らかになっている。次に北から南へ抜けるB地点を図3に示す。A地点と逆に午前の実測で乗用車の交通量が増えている。また午後になると交通量はほとんどない結果となった。この2地点の染谷を新道する直進交通量から午前は通勤時に北浦和に向かう南方向への抜け道として利用されていることがわかる。

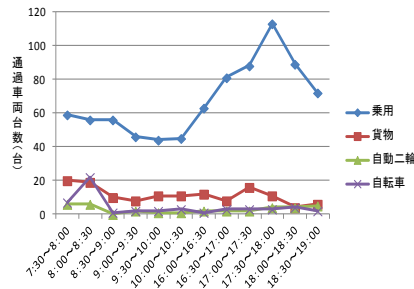


図2 A地点 南から北への交通量

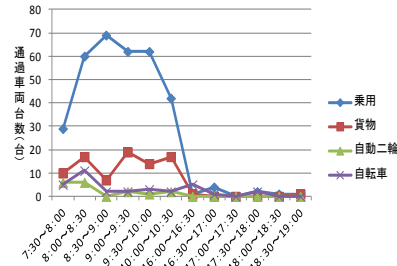


図3 B地点 北から南への交通量

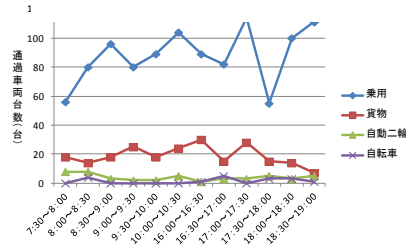


図4 C地点 3方向から染谷新道に入る交通量

A地点での交通量が平均的に高いのは染谷地域の北部に公共施設があるからであると考えられる。図4にC地点の県道214号から染谷新道に流入する交通量を示す。これは全方向から染谷新道に流入してくる交通量を示している。

図4から染谷新道に入ってくる乗用車、貨物車の交通流入量が平均して多いことがわかる。また、実測者の主観評価から通過車両の速度超過の多さが気になるという結果も得られた。実測後の話し合いの中で今後の改善案として、車両のスピード制限、車種別制限、さらに信号機の取り付けなど改善案が必要という意見が住民からあがった。実際に実測で感じたことも改善案としてこれらの意見を取り入れた。

## 5. アンケート

### 1) 概要

2012年11月3日～11月17日に、自治会に加入する50世帯と周辺施設の所長を対象に計60票のアンケート調査を行った。目的は、大宮聖苑建設に起因する染谷新道の交通量の変化に対する意識の把握である。アンケートの製本・封入作業は11月3日に住民4名と筆者で行い、各班長を中心に各世帯に向けて配布・回収する形式で行った。配布した60票のうち48票を回収し、回収率は80%となった。

## 2) 結果

図5に「道を歩いている車両交通で危険を感じますか」の回答結果を示す。「感じる」「やや感じる」を合わせた回答が85%を占めている。危険を感じるという認識は自治会の中でも非常に高く、日常的に危険を感じる機会が多いことがわかった。

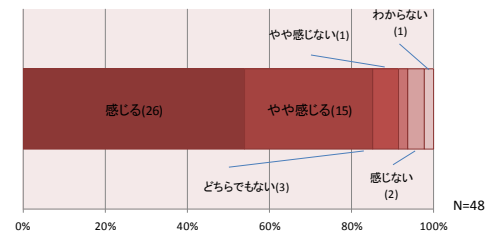


図5 「道を歩いている車両交通で危険を感じますか」の回答結果

次に図6に「大宮聖苑が建築される以前と比べて染谷新道の交通量が増えたと感じますか」の回答結果を示す。

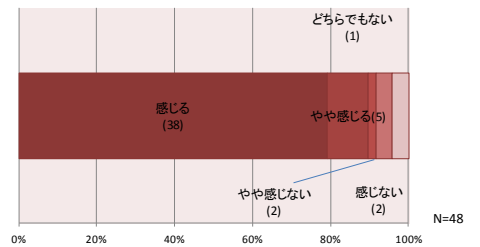


図6 「大宮聖苑が建築される以前と比べて染谷新道の交通量が増えたと感じますか」の回答結果

「感じる」の回答が79%を占めており、「感じる」「やや感じる」を合わせた回答では約90%となった。火葬場建設により通過交通量が増えていると考えられる。

## 6. 第2回懇談会

2012年2月11日(月)15:00から、染谷共栄自治会館にて第2回懇談会を行った。内容はこれまでの活動の報告、今後の改善策などを話し合った。

また、同自治会は活動の調査結果をまとめた報告書をさいたま市に提出し、問題を訴える予定である。

## 7. まとめと今後の課題

アンケートの結果を通じてこの自治会の住民の交通量に対する意識が非常に高く実際に危ないと感じている人が多いことがわかった。また交通量調査を通して、染谷新道は改めて通過車両の速度超過の多さや通勤時間帯の抜け道として交通量過多問題を抱えていることが明瞭となった。この自治会では2年後には染谷新道東部に井橋が開通される。これは火葬場来客者の専用出口になる予定で建設されているものである。本研究を通して現状の把握ならびに現在のデータをとっておくことで井橋開通時に、データの比較もできると考えられる。今後、染谷新道の交通量過多緩和の鍵となる井橋開通後の交通量調査が必要と言える。その際に本研究が住民の今後の対策を行うきっかけとなると考えられる。

本研究は、科学研究費助成金(基盤研究(C))「住民との協働による住環境づくり活動がもたらす効果の総合的検証と展開」(研究代表者:三浦昌生)によるものである。

\*1 芝浦工業大学大学院修士課程

\*2 五洋建設(当時芝浦工業大学学部長)

\*3 芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 教授・工博

Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

Goyou Construction

Prof., Dept. of Architecture and Environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.